

JA全農ウィークリー
WEEKLY

3
面

エコープマーク品共同開発 第2弾スタート

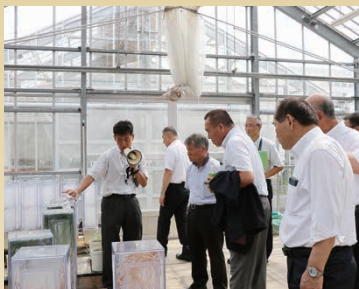
来年4月発売に向けJA全国女性組織協議会と「料理用だし」で検討

2面

秋田大仙SPF豚センターが竣工



秋田県大仙市に完成した秋田大仙SPF豚
センター(2面)



営農・技術センターで開発中の殺虫成分「ピラキサルト」の試験状況を視察する総代(2面)



エコープマーク品共同開発第2弾で「料理用だし」の候補品について協議するJA全国女性組織協議会メンバー(3面)

- 2 総代が営農・技術センターなど視察
(総務部)

- ### 3 人権・同和に関する講演会開催 (人事部)

- #### 4 JAズームイン(JA淡路日の出)

- 5 県本部だより(福島県本部)

- ## 6 ゼノベーターからのメッセージ ③

- ## 7 全農海外輸出拠点紹介 (全農インターナショナルアジア(株))

- 8 10月2日は「直売所の日」
ファーマーズマーケットに行こう！（広報部）

JAタウンショップ紹介 東北協同乳業(株)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



総代が営農・技術センターなどを視察

全農の研究事業などへの理解深める

総務部

全農は通常総代会前日の7月25日、総代の方々を対象に、神奈川県平塚市の営農・技術センターとJA全農青果センター株式会社神奈川センターの視察を行いました。

総代施設視察は、総代の任期3年の間に1回開催しています。今回は、総代34人に参加いただきました。

営農・技術センターでは概要説明の後、6班に分かれて各研究室を視察しました。農薬研究室では、ウンカ類に対して高い効果を示す開発中の殺虫成分「ピラキサルト」の試験状況を視察しました。



営農・技術センターで開発中の殺虫成分「ピラキサルト」の試験状況を視察

生産資材研究室では、生産者の声を反映した低価格

モデル農機として完成したばかりの共同購入トラクターの実機を視察しました。

JA全農青果センター(株)神奈川センターでは、青果物をコールドチェーンで一時保管・仕分けする低温仕分場を視察しました。

施設視察を通じ、全農の研究事業などへの理解を深めていただきました。



JA全農青果センター(株)神奈川センターで低温仕分場を視察

News!



秋田大仙SPF豚センターが竣工

ハイコープSPF種豚の生産・供給の基幹農場として稼働

畜産生産部・全農畜産サービス(株)

全農畜産サービス株式会社が昨年度から秋田県大仙市に建設を進めてきたSPF種豚生産農場が7月30日、秋田大仙SPF豚センターとして無事、竣工を迎えました。

全農グループはかねてより、養豚振興を目的にハイコープSPF種豚の開発・生産・供給を推し進めてきましたが、生産・供給を担当する全農畜産サービス(株)は、全国に直営や委託生産のハイコープSPF種豚生



秋田県大仙市に完成した秋田大仙SPF豚センター

産農場を8農場有し、国内最大規模の種豚生産を行っています。今回完成した秋田大仙SPF豚センターは9番目の種豚生産農場で、年間約7000頭を供給する基幹農場となる予定です。建設に当たっては地域と共生できる農場を目指し、防疫対策はもとより、最新技術による防臭設備や排水処理設備を設置することにより、環境保全に最大限配慮しています。

この農場で生産されたF1種豚は、日本各地の養豚場に迎え入れられ、母豚として子豚を産み育て、安心・安全でおいしい国産豚肉の生産に役立てられます。

※SPF種豚…豚の成育に影響を与える特定の病原菌を持たない種豚

※F1種豚…肉豚を生産するための種豚



エコープマーク品共同開発 第2弾スタート

来年4月発売に向けJA全国女性組織協議会と「料理用だし」で検討

生活リテール部

「料理用だし」の候補品について協議するJA全国女性組織協議会メンバー



対象商品は、JA全国女性組織協議会との意見交換の中で「日本型食生活の継承のため和食に欠かせない基礎調味料を開発したい」との意向が強かったことを踏まえ、「料理用だし」に決定

生活リテール部は、国産原料を優先的に使用したJAグループのプライベートブランド商品「エコープマーク」品の開発・取り扱い拡大を進めています。平成29年度は組合員の声をより反映するため、初の試みとして全国のフレッシュミズ有志と「エコープほめられ酢」を共同開発し、ご好評をいただいています。今年度もさらなるJA全国女性組織協議会との連携強化に向け、現在、新商品の共同開発に取り組んでいます。

し、JA全国女性組織協議会理事や県女性組織会長をメンバーに開発を進めることになりました。

7月27日には、岐阜県の取扱先で「第1回商品共同開発会議」を開き、エコープマーク品の概要や市場動向などを研修後、開発候補品の試食などを通じた商品仕様を検討しました。開発メンバーからは「素材を生かす商品がよい」「さまざまな料理・世代が利用できる商品を開発したい」など活発に意見が出されました。

今後、31年4月の新発売に向け、「第2回商品共同開発会議（10月開催予定）」など各種会議体での検討を進めていきます。



人権・同和に関する講演会を開催

ライン長らが人権課題への理解を深める

人事部

人口変動などによる社会の変化について説明する部落解放同盟中央執行副委員長の北口末広氏

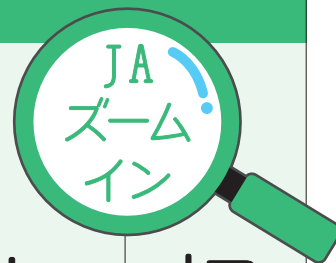


山崎周二専務が「SNS・インターネットの普及など、社会情勢が日々刻々と変化する今、人権問題について、一層深い知識・理解が求められている。本日の講演を生かして、差別や嫌がらせ

全農は7月31日、東京・大手町のJAビルで、「第19回人権・同和に関する講演会」を開きました。本所各部のライン長、子会社の人事担当部長をはじめ、TV回線を通して各事業所・所場・県本部のライン長ら約300人が参加しました。

のない働きやすい職場をつくっていく」とあいさつしました。

続いて部落解放同盟中央執行副委員長の北口末広氏から、「激変する社会的状況と人権課題―部落差別解消推進法施行をふまえて―というテーマで講演いただきました。人口減少や科学技術の進歩が社会に与える影響、その中で差別やハラスメントなどの人権問題がどのように現れるのかといった課題を、時にはクイズなども交えてお話いただくとともに、2016年に成立した「部落差別解消推進法」の意義についてご説明いただき、出席者は講演を通じて人権や差別の問題に対して理解を深めることができました。



初の農産物直売所開店

レンタル農機でコスト低減



JA淡路日の出農産物直売所「御食菜采館洲本店」が4月7日、洲本市本町にオープンしました。同直売所は、

「地元で生産された、新鮮な産物（御食）を、彩り良く選べとられた食材として再々（菜采）買いに来てほしい」と

地域の期待が大きい農産物直売所「御食菜采館洲本店」

直売所のオープンを祝いテープカット



いう意味で命名しました。

「御食菜采館」は、地域で生産された安全・安心な農産物を消費者に直接販売する地産地消の拠点として、農産物出荷による所得増大とともに地元農産物の消費拡大に取り組みJA淡路日の出で初めての農産物直売所です。

**高齢農家の生産意欲刺激
地域密着型の店舗目指す**

出荷者からは、「御食菜采館が出来て、JAに共撰で出荷できなくなった高齢の農家の助けになっています。大規模な農家が少ない淡路島だからこそ直売所が良い販路となっており、消費者に生産者のことを知ってもらう場にもなっていることで、生

JA淡路日の出(兵庫県)



概要	平成30年3月31日現在
正組合員数	9992人
准組合員数	7114人
職員数	294人
販売品取扱高	51億7千万円
購買品取扱高	24億3千万円
貯金残高	2381億2千万円
長期共済保有高	4811億2千万円
主な農産物	和牛・牛乳、淡路島たまねぎ、レタス、花き類 他

産意欲の向上にもつながっています」と直売所への期待も大きくなっています。

「御食菜采館」は、生産者と地元の人々が気軽に利用できる地域密着型の店舗を目指しています。

**「淡路島たまねぎ」向け
レンタル農機取りそろえ
コスト低減を図る**

農業経営における農機具導入コストは、農家の大きな課題となっています。

JA淡路日の出では、農機をレンタルすることによりコスト低減と機械化による規模拡大・継続営農の実現に取り組んでいます。

レンタル農機は、ブランド商品でもある「淡路島たまねぎ」の栽培にかかる種ま



コスト低減に向けたレンタル農機

き・管理・定植・収穫の機械を取りそろえレンタルしています。
また、主力農産物でもある秋冬作野菜の定植機や水田管理機などもレンタルしています。

県本部 だより

福島県本部



直営JA農産物直売所「愛情館」 地域に密着した店舗づくり実践 出荷者とともに地域に愛される施設へ

福島県本部は8月9～13日、郡山市にある直営店のJA農産物直売所「愛情館」で、「お盆花市」を開きました。

「一大イベント」「お盆花市」
1万6000人超す来場者

毎年、愛情館の花市は、お



「愛情館」一大イベントの「お盆花市」



生産者に向けて手作りした「愛情館通信」

盆とお彼岸に合わせて開きます。特に、お盆の花市は盛大で、5日間であ来店者数約1万6000人、3800万円の売り上げとなりました。

愛情館のある郡山市では、墓参りの際、自分の家の墓だけでなく、親戚・知人の家の墓にも、自分の名前を書いた竹製の花立てと一緒に、花を供

えるという風習があります。そのため盆前には、一人であくさんの花を買い求めるお客さまで、大盛況となります。

愛情館は、平成13年6月21日にオープンしました。当時はまだ直売所が少なく、品質の良さや手頃な価格などから、徐々に地域の皆さまにご愛顧いただくようになりました。

震災後の平成25年5月31日に同敷地内に新たな店舗を建設し、リニューアルオープンしました。新店舗は、青果物の試食ができるセンターキッチン、乳製品の販売コーナー、イートインスペースなど面積を大幅に広げました。

店内には、愛情館のスタッフ手作りの商品紹介や、ぬいぐるみポップが、いたるところにあります。来店されるお客さまに、少しでも分かりやすく、楽しんでお買い物をしていただけるよう、アイデアと愛情がたつぷりと詰まっています。

平成30年2月16日には、新店舗の累計来店客数200万人を達成し、地域に密着した店舗として認められつつあります。

今年度から出荷者に向けて『愛情館通信』で情報発信

愛情館を作り上げてきたのは、「愛情館出荷者協議会」を構成する生産者約800人の皆さんです。長年、愛情館への出荷・販売に尽力いただいた結果、平成29年度の愛情館販売実績は約9億4900万円（前年対比106%、税込み）、来客数約50万人（前年対比105%）となりました。愛情館では、定期的に出荷者講習会などを開き、出荷時の注意点を確認したり、種苗会社の社員を

講師に招き研修会を開くなど、生産者と一体となって店舗運営に取り組んできました。また、今年度から『愛情館通信』と題し、写真やイラストを使って、生産者に向けた出荷時の注意点やお知らせなどを、分かりやすく・ユーモアにあふれた内容で、定期的に情報発信しています。

今後も、地域の皆さんに積極的にご利用いただける店舗づくりを目指し、生産者・スタッフ一同、安全・安心、そしておいしい福島県産青果物の販売に取り組んでいきます。福島県郡山市にお越しの際は、ぜひ農産物直売所「愛情館」にお立ち寄りください。

店舗概要

店舗名 JA農産物直売所 愛情館

所在地 〒963-8024
福島県郡山市朝日二丁目3-35

営業時間 9:00～18:00

定休日 毎月第1水曜日（年末年始を除く）

愛情館ブログはこちら

▶▶▶▶ <https://blog.goo.ne.jp/aijokan>



ドローンを核とした新しい米生産支援事業の展開

本所 耕種総合対策部 阿部浩人さん

ベンチャー企業への出資から始まった プロジェクト

平成29年10月、優れた飛行性能を持つ全自動飛行ドローンと、AIを活用した生育診断システムなどを開発するベンチャー企業(株)ナイルワークスに全農が出資し、プロジェクトが始まりました。ドローンを活用した新たな取り組みには他部門の協力が不可欠と考え、メンバーには当部のほか、生産資材部、肥料農薬部にも参画してもらい、当時募集していた平成29年度新規事業提案制度に応募し、採択されました。

農業分野でのドローン活用と言えば農薬散布が一般的ですが、プロジェクトではナイルワークスドローンの生育診断クラウドサービス機能などを活用し、全農が圃場(ほじょう)管理から品種・育苗・田植え、栽培管理、施肥・防除、収穫、乾燥・調製、販売までをトータルで提案する「米生産システム」を農業者に提供するという目標に向かって取り組んでいます。

自動飛行ドローンの可能性と 検討状況

ナイルワークスのドローンは、事前に測量した圃場内を、数センチ単位の高い精度で自動飛行できることが最大の特長です。これにより操縦者は飛行中タブレットを持ち、ドローンを監視するだけで済むため、労働力不足や熟練不足をカバーできる技術として期待されています。また、ドローンに装備された複数のカメラを使って水稻の生育判断や収量予測の開発も

進められています。

現在のプロジェクトではこうした可能性をメンバーと共有しながら、自動飛行ドローンを巡る法令やルールについての課題を整理したり、農業者が安全に使用できる機体の提供、教習や保守体制の整備など全農による今後の対応策について協議しています。



ドローンを点検する耕種総合対策部の阿部さん④

目標に向けた道のりはまだ 1～2合目

われわれのプロジェクトは発足からまだ1年足らずで、道半ばにあります。すでに完成された資材や技術の現場普及とは違い、プロジェクト参画部署の協力を得ながら、ゼロベースからの積み上げによる事業の仕組み作りも必要となります。非農業系ベンチャー企業がパートナーだと、従来の“全農のやり方”は通用しないことを痛感する日々ですが、新たに学ぶことも少なくありません。今年のZennovationでは、去年はなかったピッチ・コンテストが開催され、審査や投票結果に基づく表彰も行われますので、こうしたチャンスを積極的に活用することをお勧めします。

(おわり)



活用が期待される自動飛行ドローン

全農インターナショナルアジア(株)

常に新しいものを求める国で奮闘

シン
ンガポールの朝は、いろいろな「おはよう」のあいさつで始まります。この国には、中華系・マレーシア系・インド系の国民、アジアはじめ世界各国からの移民など、さまざまな人種・民族が暮らして

シ
ンガポールに全農インターナショナルアジア株式会社が設立されたのは、2015年1月のこと。2015年は、建国の父リー・クアンユー元首相が亡くなった悲しみの年であり、建国50周年となる節目の年でもありました。

式会社が設立されたのは、2015年1月のこと。2015年は、建国の父リー・クアンユー元首相が亡くなった悲しみの年であり、建国50周年となる節目の年でもありました。

り立っています。日本産農畜産物の輸入販売をはじめ、肥料・飼料原料などの購買補助、情報収集、各国農業関係団体等との交流、系統組織や取引先の方々が来訪された時の対応など、さまざまな業務を担っています。

日
本人駐在員2人で始まった事務所は、その後移転し現在は3人の駐在員と2人の現地スタッフで成

シ
ンガポール人の気質を表し、負けず嫌いを意味する「キアス(KIASU)」という言葉があります。シン

ランも、生き残りのため日々のぎを削っています。

常
に新しいものを求め移り変り激しい、キ

アスな国シンガポールで、スタッフ一同「日本の生産者と世界の消費者を安心で結ぶ懸け橋になる」よう、日々奮闘しています。シンガポールへお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



スタッフ:後列左から西林崇(書記役、部長)、高須博幸(取締役)、金子弘和(営業部長)、アイビー・チェン(営業担当)、イヴォンヌ・ラウ(総務、経理担当)

おはようのあいさつ	
早上好(ザオ シャン ハオ)	中国語
Selamat Pagi(スラマツ パギ)	マレー語
Kālai Vanakkam(カーライ ワナッカム)	タミル語
Good Morning(グッド モーニング)	英語



平仮名の看板も見られるホーカーセンター



事務所があるSBFセンタービル



事務所からの光景。モダンな建物と歴史ある建造物が混在しています

※次回は、全農アメリカ株を紹介しします(9月17日号の予定)。

10月2日は
「直売所の日」

直売所(ファーマーズマーケット)に行こう!



2000円以上購入の方に抽選で国産農畜産物が当たるキャンペーンも【広報部】

10月2日を「直売所の日」に登録

JAグループは、10月2日を「直売所(ファーマーズマーケット)の日」として登録しました(一般社団法人日本記念日協会が認定)。

10月2日としたのは、JAグループが直売所を地産地消の拠点として地域経済の発展に貢献することなどを定めた「JAファーマーズマーケット憲章」の制定日(平成15年10月2日)であることや、「採れ(10)たてに(2)会おう」の語呂合わせによるものです。



2000円以上購入の方にチャンス! 国産農畜産物が 当たるキャンペーンを実施



JAファーマーズマーケットで2000円以上お買い上げの方を対象に、レシートを貼って応募すると、抽選で国産の農畜産物が当たるキャンペーンを実施します。ただし、実施の有無、開始時期は店舗によって異なります。詳しくは、JAグループウェブサイトでご確認ください。

また、スマートフォンアプリ「JA旬みっけ!」では、JAファーマーズマーケットに来店するとスタンプが増え、アプリ限定のプレゼントキャンペーンに応募できる機能を追加する予定です。詳細が決まり次第、ウェブサイトなどでお知らせします。

JAグループウェブサイトは
こちらから



スマホアプリ「JA旬みっけ!」活用を

今年4月に始動したJAグループのスマートフォンアプリ「JA旬みっけ!」では、直売所の入荷状況などの情報を見ることができます。無料でダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

「JA旬みっけ!」ダウンロードはこちら



※iOSでは10.0、Android OSでは6.0より前のバージョンの場合、ご利用頂けない可能性があります。



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.
ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン
シヨップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

東北協同乳業株式会社



JAタウンは
こちらから



11/19-B1乳酸菌ヨーグルト ドリンクタイプ
(1箱、90g×6個入り×2)……1740円



「福島復興・風評被害払拭」の一環として、平成26年7月に発売した「11/19-B1乳酸菌ヨーグルト」のシリーズ商品として、「11/19-B1乳酸菌ヨーグルト ドリンクタイプ 90g」を発売しました。

この商品も、東京大学大学院薬学系研究科の関水久教授(現東京大学名誉教授)が発見した、自然免疫活性性能の高い「乳酸菌11/19-B1株」を活用し、生乳を93%使用にて、香料・安定剤不使用の濃厚な味わいに仕上げてあります。また、ドリンクタイプは気軽に飲め、より多くの方にご愛飲頂ければと期待しております。

この商品は、JAタウンと東北協同乳業ネットシヨップでお買い求めいただけ、JAタウンでは便利でお得な定期購入もご用意しています。

ぜひ、この機会にご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、9/14(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、クール代、送料が必要となります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。